令和５年度　卒業証書授与式（3.1 金）

卒業生　入場

卒業証書授与（卒業生代表 髙松 舞博 さん）

式辞（校長 千葉 栄美）

答辞（在校生代表２年 光谷 晟 君）

送辞（卒業生代表 七戸 孝介 君）

式歌（卒業生「仰げば尊し」）

式歌（在校生「蛍の光」）

卒業生　退場

祝電

同窓会入会式

式場の様子

令和６年３月１日(金)第 76 期生 140 名が無事に卒業を迎えました。

ご関係の皆様には、日ごろ支えていただき、感謝申し上げます。

76 期生の皆さん、今後のご活躍を期待しています！

ご卒業おめでとうございます。

送辞

下北の寒さも和らぎ、暖かな春の訪れを感じることができるような季節となりました。この佳き日に大湊高校を巣立ち、それぞれの未来へと進んで行く卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお慶び申し上げます。

先輩方がこの大湊高校に入学されてから早いもので三年の月日が経ちました。皆さんの高校生活はどのようなものだったでしょうか。行事、部活動、そして校外活動など、たくさんの思い出がよみがえるのではないでしょうか。後輩の私たちから見ると、特に学校行事でその存在感の大きさを感じました。文化祭での模擬店やファッションショーでは先輩方各クラスの個性が最大限に発揮されているのを感じ、心が躍ったことを覚えています。CMバトルでは見る者を楽しませるための様々な工夫が見られ、CMの至る所から編集者、撮影者、そして被写体となった先輩方の本気度が伺えました。体育祭や球技大会では、普段見ることができない程の真剣な一面を垣間見ることができました。汗水を垂らし、勝利を目指して貪欲に向かっている姿や、体育祭そのものを誰よりも心から楽しんでいながらも、誰よりも勇ましく勇猛果敢に本番に臨んでいる姿に憧れを抱きました。

先輩方と過ごした二年間は私にとって楽しく、学ぶことが多いかけがえのない時間でした。決してその日々を忘れることはないと思います。 先輩方の存在は大きく、明日からいなくなることに、心細さを感じます。しかし、社会へ出て、自分らしい人生の第一歩を踏み出す皆さんに負けないように、先輩方が築き上げてきた伝統と歴史をしっかりと受け継ぎ、大湊高校を無限に進化していける学校にしていきます。そして、今よりもさらに大湊高校生であるということに誇りを持てるように精進して参ります。

先輩方の御健勝と、これからの新たな一歩が光り輝き、未来まで明るく照らされますよう、心からお祈りし、送辞といたします。

令和六年　三月　一日

在校生代表　光 谷　晟

答辞

本日は、ご多忙の中、私たち３年生のために、このような素晴らしい卒業式を挙げていただき、心より感謝申し上げます。ご来賓の皆様には、ご多忙にもかかわらずご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

先生方、保護者の皆様、私たち１４０名は卒業証書を手にすることができる喜びと、この安渡ヶ丘からそれぞれの道に羽ばたこうとする希望に満ちています。私たちが今ここにいることが出来ているのは、皆様の支えあってのことだと思います。そのすべてに感謝し、この場所を借りて心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

高校進学後、私は将来の大学進学や起業を夢見ていましたが、偶然、恩師と仰ぐ先生と出遭いました。しかし、対話を深めていくうちに、私の自信が揺らぎ始め、その後、周囲から勧められるまま「日本の次世代リーダー養成塾」に参加し、予想を上回る多くの問題や苦悩、現実との更なるギャップに直面したのです。ショックのあまり、学校を辞めて、新たな挑戦をしようと模索しましたが、それも叶わず、絶望にとらわれ、学校にも行けなくなりました。

しかし、挫折と引きこもりの中でも、本や芸術が私を支え、人生を諦めないように導いてくれました。中でもブッダの教えに触れたときに、偶然にも学校に戻ることが出来たのです。多くの支援を受けながら残りの学校生活を過ごすことが出来、その中でも信任投票で生徒会長に就任できたことは、奇跡的な出来事で本当に良かったと思います。生徒会長としての経験は、私の大きな糧となりました。私は現在、大学進学が決まり、絵や彫刻などの芸術活動に没頭しています。

コロナ禍明けとは思えないくらい、学校行事での思い出は多彩で素晴らしいものでした。文化祭では、クラスごとに作品や模擬店を準備し、それぞれの個性が光っていました。先生と生徒、中でも生徒会と顧問の先生との協力が一番目立った行事でした。体育祭では、チーム一丸となって競技に取り組み、勝利の喜びや仲間との絆を感じることが出来ました。球技大会では、緊張感と興奮が入り混じった試合を通して、協力することの大切さを学びました。体育委員会が主となり引っ張ってくれました。

これらの素晴らしい行事を通して、私たちが皆さんと一緒に学んだことや喜びを胸に、私からのメッセージを述べさせていただきます。在校生の皆さん、自分の本当の好みや興味を知り、今後の生活を楽しみましょう。普通に生活しているだけでも、必ず失敗や絶望感に出会ってしまいます。また、楽しもうとすればするほど、より一層辛いことも苦しいことも増え

るでしょう。そういった状況でも、迷走や模索を続けることで、自分にとっての確信を見つけ出すことが出来るかもしれません。それはきっと、何事にも代えがたい喜びや嬉しさをもたらすでしょう。

そのためには当たり前のことが重要です。当たり前のことが大切だという言葉はよく聞きますが、私は、もっと当たり前のことが大切だと思います。それは、よく食べること。疲れたら休むこと。一人ではなく、みんなで支えあうこと。今この瞬間の繋がりを大切にすること。失敗しても大丈夫だということ。よく動いて、たくさんのものや人に恋をして、面白おかしく張り切って人間として生きる。存分に悩み、楽しんでほしいと感じています。今まで本当にありがとうございました。

ご指導してくださった先生方、私たちに対して継続的に質問を投げかけ、考える機会を与えてくださったことに深く感謝します。そのおかげで私たちは自己探求することができました。心から感謝しています。

また、陰ながら支えてくださったご来賓や地域の皆様に心から感謝します。皆様の温かいご支援に感謝し、今後も地域との絆を大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。

そして、保護者の皆さん。今日まで歩むことが出来たのは、これまでの支えがあったからです。私たちをこれからも優しい眼で見守っていただくと同時に、時折の対話も大切だと思っています。

大湊高校の幸福と、皆さんのご健勝を心から祈り、答辞の言葉とさせていただきます。

令和六年三月一日　第七六期卒業生代表
生徒会長　七戸孝介